

STEP3 総 評

初回・()回目 年 月 日

医師意見書 リハビリの必要性	無	有⇒理由
生活行為の低下	無	有⇒内容
生活行為低下の原因・兆し	無	有⇒☑項目
リハビリの必要性	無	有⇒依頼事業所
リハビリ以外への相談	無	有⇒相談先
本人・家族の意向		
介護支援専門員の意向		
総合的な支援方針（結果）		

()回目 年 月 日

生活行為の低下	無	有⇒内容
生活行為低下の原因・兆し	無	有⇒☑項目
リハビリの必要性	無	有⇒依頼事業所
リハビリ以外への相談	無	有⇒相談先
本人・家族の意向		
介護支援専門員の意向		
総合的な支援方針（結果）		

()回目 年 月 日

生活行為の低下	無	有⇒内容
生活行為低下の原因・兆し	無	有⇒☑項目
リハビリの必要性	無	有⇒依頼事業所
リハビリ以外への相談	無	有⇒相談先
本人・家族の意向		
介護支援専門員の意向		
総合的な支援方針（結果）		

在宅リハビリテーションサービス導入判断ツール

本ツールはケアマネジメントにおいて、リハビリテーションサービスの必要性を判断しやすくするためのサポートツールです

ツールの目的

- (1) 生活行為の低下を早期に発見し、リハサービスの必要性を本人・家族に説明ができる
- (2) 生活行為の低下に繋がる要因を捉え、予防的介入ができる
- (3) 予防的介入について、相談できる機関が明らかにできる

注意しよう! 「リハサービス導入により機能低下を防げた可能性があった」事例

在宅リハビリテーションサービス導入時の実態調査結果※から

活動量が低下し、廃用による機能低下が生じていた事例

- 膝・腰痛があり、痛みを避けて必要以上に動かなかつたため機能低下が生じた
- 退院時、自宅の環境調整が行われず、動けなかつたため機能低下が生じた
- 冬期間、家の中で一日中寝たり起きたりを繰り返したため機能低下が生じた
- 受傷・脱水・熱発などにより一時的な体力低下や安静のため、自宅内で動きにくくなり、時間が経過してしまった

二次障害（拘縮・褥瘡等）、病状進行に伴う機能低下が著しかった事例

- 脳卒中による麻痺が強く、拘縮ができてしまっていた
- 難病・進行性疾患の症状が急速に進行し、歩けなくなっていた。これまでセルフケアの指導を受けたことがなかった
- 寝たきり者でポジショニングや体位変換の方法が分からず、放置したため拘縮・褥瘡ができていた

その他

- 自宅の環境に問題があるのに通所リハのみを利用していた
- 本人・家族が介護保険やリハサービスを知らなかった
- 介護保険申請が遅れ、その間に機能低下が生じた

※リハ専門職からみて「リハサービス導入が遅れた」と思った担当利用者

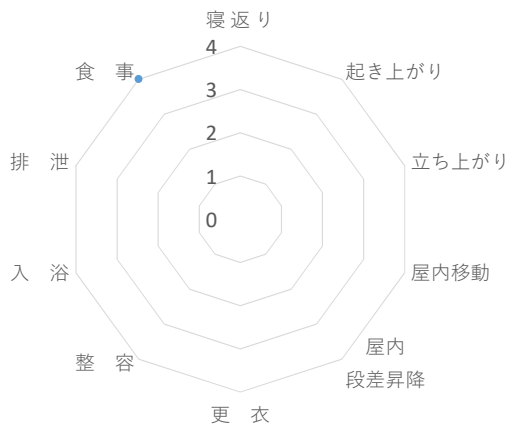
次ページ以降のシートやチェックリストを活用して、利用者の身体機能や生活機能の過度な低下をできる限り防ぎましょう!

STEP2 生活行為の「低下の原因」・「低下の兆し」を捉えるチェックリスト※2

必要に応じて、利用中のサービス担当者と相談して記入しましょう

STEP1 生活行為の変化を捉えるシート

ケアマネジャー氏名		配点			
利用者氏名		4	3	2	1
		できる	時間を要する ができる	一部介助	できない
		()回目		()回目	
		年月日	年月日	低 下	低 下
寝返り	配点				
	備考				
起き上がり	配点				
	備考				
立ち上がり	配点				
	備考				
屋内移動 移動手段 ()	配点				
	備考				
屋内 段差昇降	配点				
	備考				
更衣	配点				
	備考				
整容	配点				
	備考				
入浴	配点				
	備考				
排泄	配点				
	備考				
食事	配点				
	備考				



○生活行為の変化を捉えるシートを記入した結果
低下した生活行為がある場合は速やかに
リハサービス導入の検討をしましょう

○次にSTEP2のチェックリストを記入しましょう
生活行為が低下した「原因」や生活行為の
「低下のリスク」を見つけ、早期に対策を
検討しましょう

前回訪問時または以前の状態と比べて 増悪した・目立つようになった項目を✓する		該当する 項目に✓			特に気 なる 項目に○	リハ事業所以外にも 相談が必要と思われ る機関
		()回目	()回目	()回目		
身体 機能	痛みの増悪、痛みの部位が増えた 部 位 ()					かかりつけ医 (医療機関)
	腫れの増悪、腫れの部位が増えた 部 位 ()					
	歩行に時間がかかるようになった。介助が必要になった。 家事などの日課に時間がかかるようになった。失敗することが増えた					地域包括支援 センター (※3) 意欲については、 うつ・認知症に対 する相談
活動 量	介護保険サービス以外の外出頻度が低下した					
	家事や役割が減った					
	一日中、横になって過ごすことが多くなった (退院直後の利用者) 入院前より明らかに日中の活動量が低下している 発熱・体調不良等の後、明らかに日中の活動量が低下している					
意 欲	生活に対する意欲が低下してきている					
	好きだったことや日課に対し、興味・関心が薄れてきている					
環 境	家の段差でつまづくなど住環境への介入が必要になった 場 所 ()					福祉用具販売店 地域包括支援 センター (※3)
	福祉用具の導入、変更が必要になっている 種 類 ()					
栄 養	食事時間が長くなった 理由 () 例：介助量が増えた 飲み込みに時間がかかるようになった					かかりつけ歯科医 市町健康課 (歯科衛生士・ 栄養士)
	食事が減った					
そ の 他	新たに進行疾患の診断を受けた 疾患名 ()					地域包括支援 センター (※3)
	家庭内の支援者に変化があった (介助量増加、介助者の減少、介助力の低下等)					
	家庭内の支援者が介助方法に悩んでいる (ポジショニング、移乗等)					

※2 STEP1「生活行為の変化を捉えるシート」を使った結果

- 低下した項目がある場合 ⇒ 低下した原因を分析しましょう
- 変化がなかった場合 ⇒ 生活行為の低下の兆しがないかチェック(確認)し、予防的な対応策を検討しましょう

※3 地域リハビリテーション活動支援事業(市町事業)

ケアマネジメントへの助言を目的にリハ専門職の派遣を実施しています。リハ専門職からデイスサービスで実施する体操、介助方法、住宅改修などの助言を受けることができます。受付窓口は地域包括支援センター(豊岡市の場合は高年介護課)